

令和4年度 第2回

「嶺南ふるさと学習」 推進プロジェクト会議



令和5年2月10日（金）
14：00～実践発表
14：50～会議

「嶺南ふるさと学習」推進プロジェクト

嶺南のふるさとを生かした「探究的な学習」

知る

つなぐ
広げる

つくる
かかわる

育む「ふるさと愛」

- ・地域を生かす、守る
- ・地域とつくる、育てる



育てる「資質・能力」

- ・自ら「問い合わせ」をつくる力
- ・対話力、協働する力
- ・発信力、課題解決力

高校

中学校

「問い合わせ」を
深く探究

小学校

探究的な学習活動の充実
つけたい力の系統化

嶺南市町教育委員会・学校（小・中・県立学校）推進プロジェクト

嶺南教育事務所
推進プロジェクト実行委員会

○調査・研究プロジェクト

- ・資質・能力の評価（調査・研究）

○学び・交流推進プロジェクト

- ・R-cafeの開催、嶺南教育実践フォーラム

○連携サポート・広報プロジェクト

- ・学校事業のサポート（訪問研修等）²
- ・情報の発信（HP、STEP等）

「嶺南ふるさと学習」推進プロジェクトの進め方

第1ステージ
(令和3~5年度)

知る

- 資質・能力の評価方法の調査・研究
- 県事業を軸にした異校種間のつながりづくり
- 情報の発信・交流・共有
(R-cafe、嶺南教育実践フォーラム等)



第2ステージ
(令和5~6年度)

つなぐ
広げる

- 資質・能力の評価方法の試行・調査
- 異校種間と「つなぐ」「広げる」
- 教科と学びを「つなぐ」「広げる」
- 情報の発信・交流・共有
(R-cafe、嶺南教育実践フォーラム等)



第3ステージへ
～つなぐ～

つくる
かかわる

- 資質・能力の活動・評価の充実期へ
- 自ら「問い合わせ」をつくる
- 自ら「つながり・かかわり」をつくる
- 情報の発信・交流・共有
(R-cafe、嶺南教育実践フォーラム等)

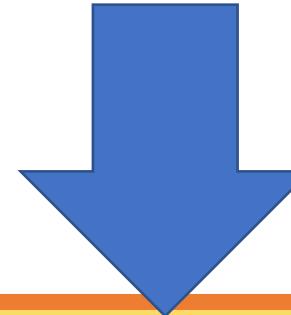


福井県教育振興基本計画の推進

嶺南市町教育委員会・
学校の発展的な取組

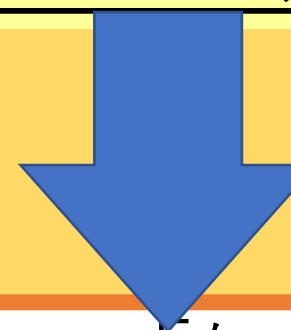
ステージ1 「知る」年度別計画

R3 「知るvol.1」 → 相互の実践を「知る」



課題→・資質・能力の見取り、評価
・学校間の「つながり方」

R4 「知るvol.2」 → ①資質・能力の見取り・評価
②異校種間のつながり方



R5 「知るvol.3」 → 「つなぐ・広げるvol.1」

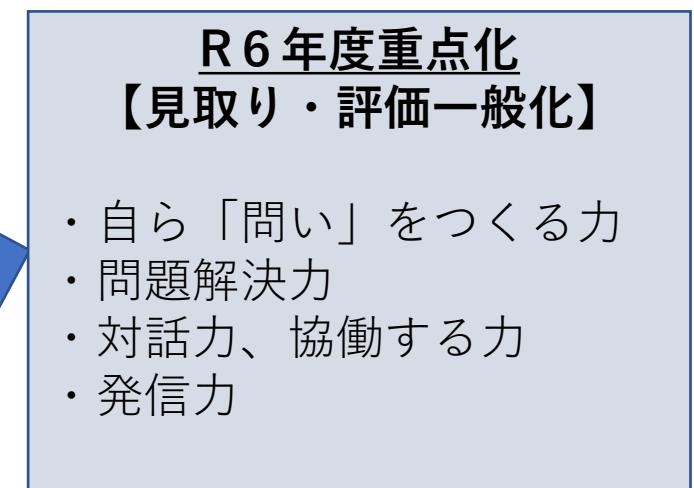
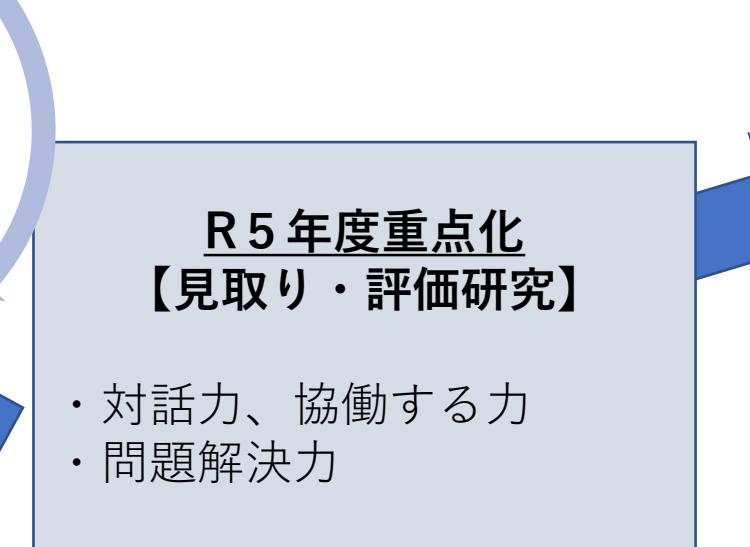
学校間の教員、児童・生徒をつなぐ
探究的な学びをつなぐ「ふるさと学習 ⇄ 教科」⁴

重点化した「知る」の「見取り・評価」研究

R4 「知るvol.2」



- ①資質・能力の**見取り・評価**を「知る」
- ②異校種間の**つながり方**を「知る」



「自ら『問い合わせ』をつくる力」への ギミック（しあげ）について

○どのような環境が自ら問い合わせをつくる「きっかけ」となるのか

- ・課題の設定における「しあげ」「きっかけ」
- ・外部との連携（地域・学校間・異校種間）でつくる「しあげ」

小学校

探究的な学習活動の充実
つけたい力の系統化

○学び・交流推進プロジェクト

・R-cafeの開催、嶺南教育実践フォーラム

○連携サポート・広報プロジェクト

・学校事業のサポート（訪問研修等）

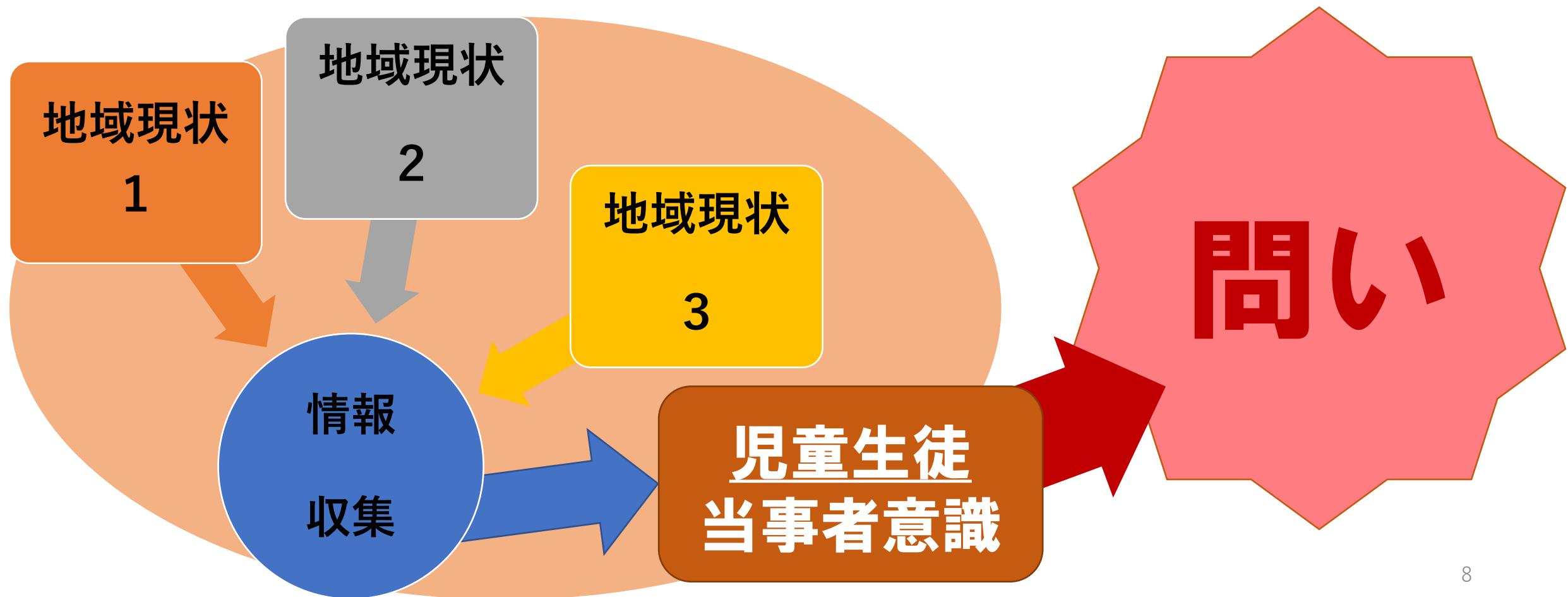
自ら「問い合わせ」をつくるギミック①

～豊富な体験が「問い合わせ」の基本～



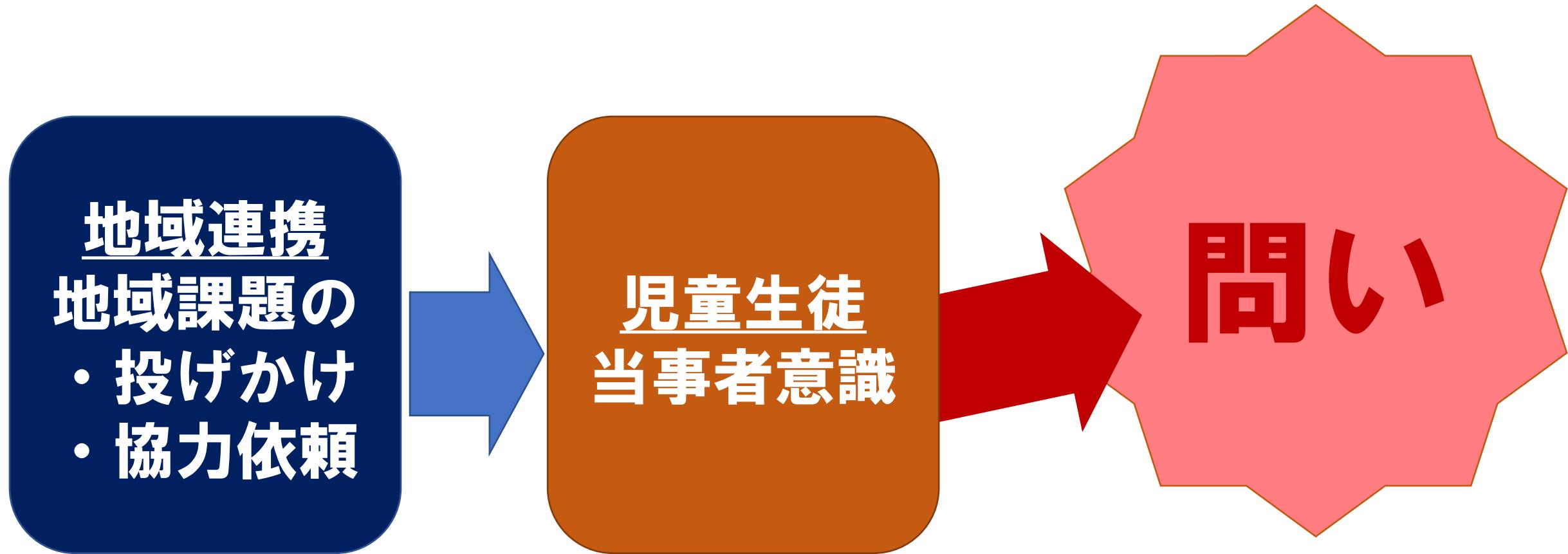
自ら「問い合わせ」をつくる ギミック②

～多くの情報受信から「問い合わせ」へ～



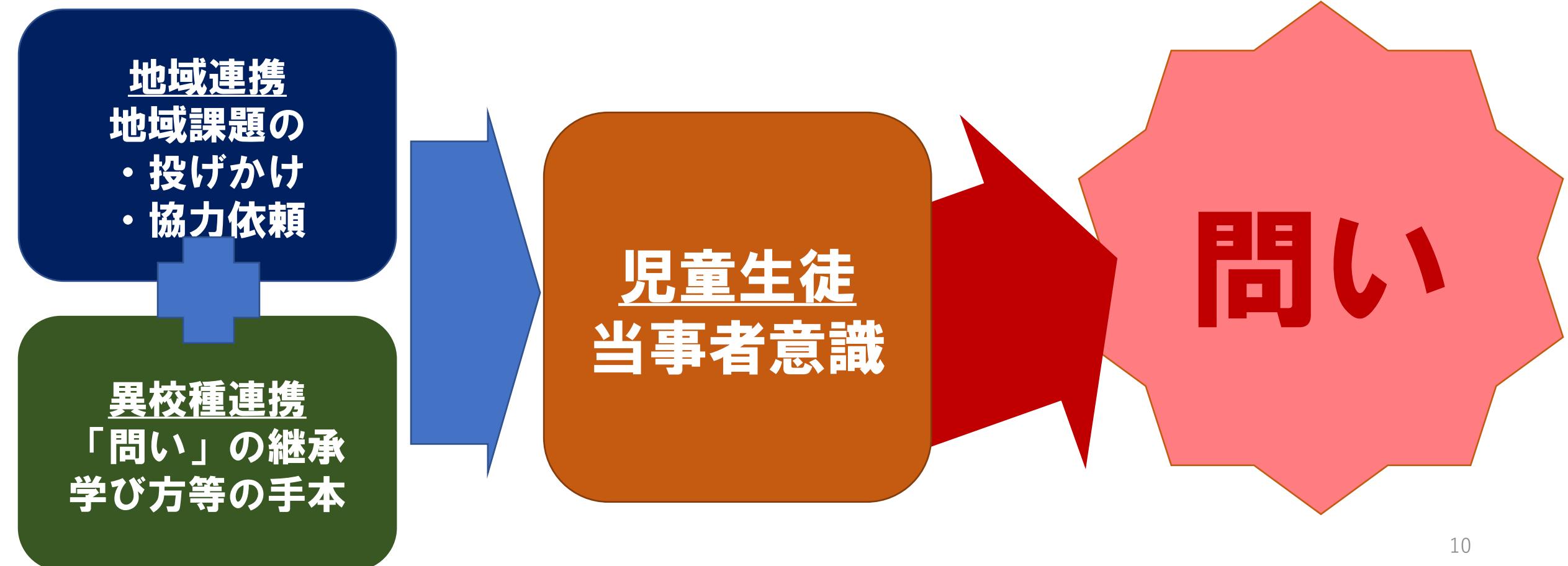
自ら「問い合わせ」をつくる ギミック③

～地域からのSOSが「問い合わせ」に～



自ら「問い合わせ」をつくる ギミック④

～地域からのSOS + 「問い合わせ」の継承～



「自ら『問い合わせ』をつくる力」の 見取り・評価の場面・方法

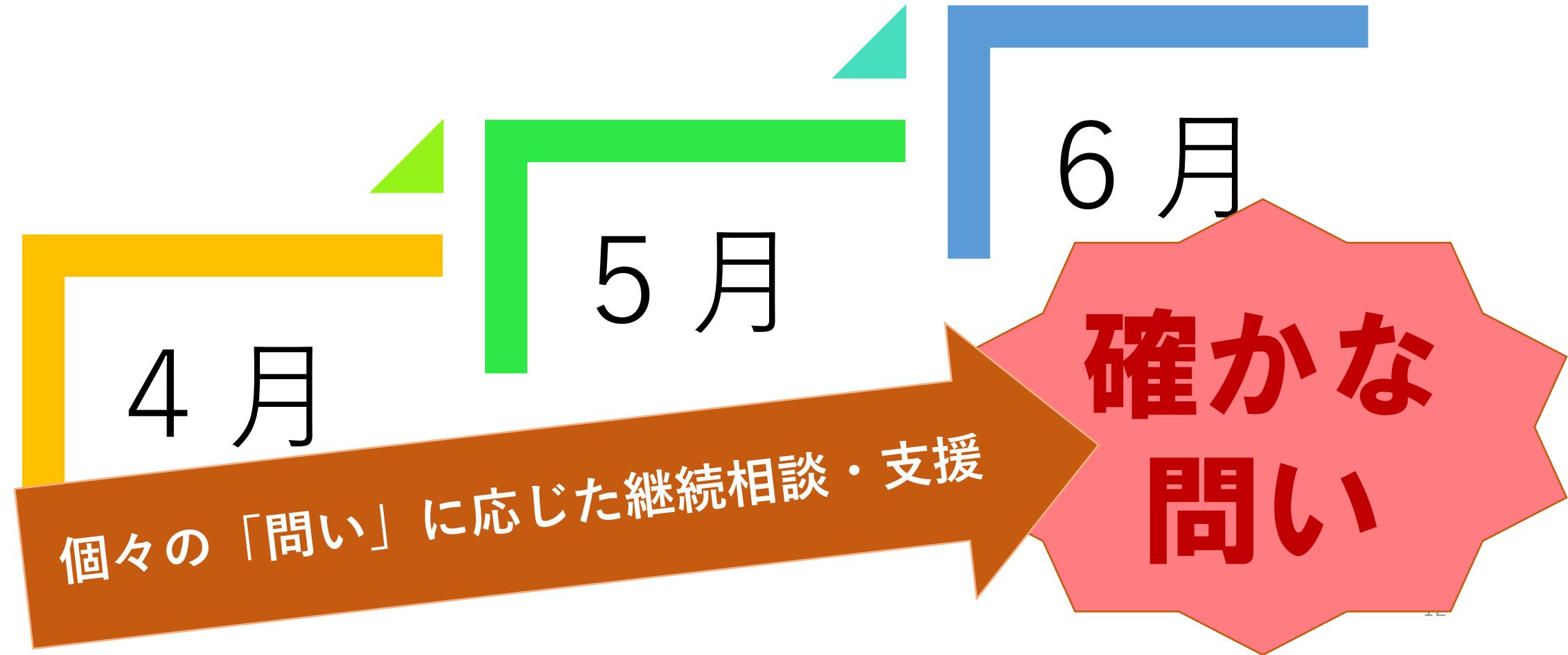
- 「どの場面」「どの姿」を「どのように」見取り、評価するのか
- 「メタ認知」としての自己との向き合い方をどうつくるか

小学校

探究的な学習活動の充実
つけたい力の系統化

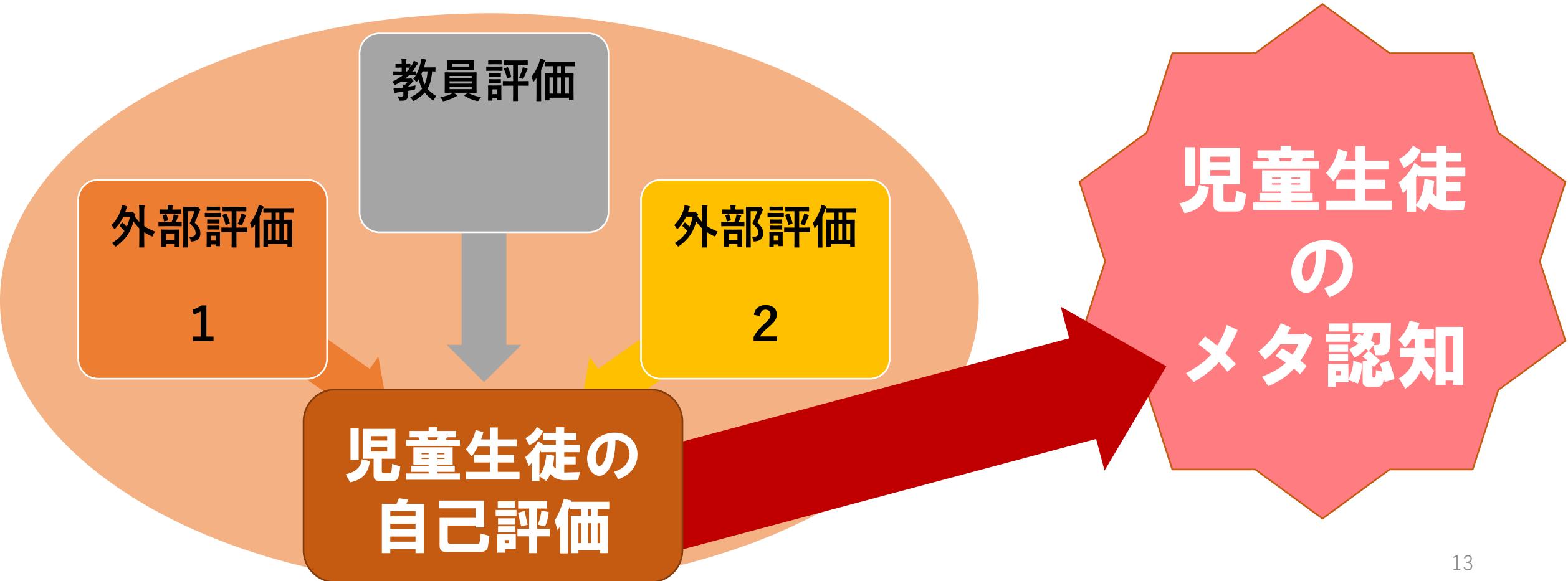
会議事前学校訪問から見えたこと

自ら「問い合わせ」をつくる見取り・評価①～面談～



会議事前学校訪問から見えたこと

自ら「問い合わせ」をつくる見取り・評価②～自己・外部評価～



「嶺南ふるさと学習」推進プロジェクト



の進捗について

R4 「知るvol.2」 → ①資質・能力の見取り・評価
②異校種間のつながり方

<1>「嶺南ふるさと学習」の進捗

嶺南教育事務所

プロジェクト実行委員会の取組



R4 「知るvol. 2」 事務所実行委員会のギミック

「指導と評価」 調査研究チームmission

◇見取り・評価について 「学校モデル」を調査

【学校調査】

- ・R3年度アンケートをもとにした見取り・評価の調査
- ・学力調査(国・県)の児童生徒質問紙と関連した調査研究
- ・自ら「問い合わせ」をつくる学習場面の参観

【基本】特別支援学校の個の見取り方に学び・たち返る

新聞から【敦賀市】「地域の人（産業）・高校生から学ぶ」

敦賀市松原小児童と教員が、6年生は総合的な学習で、授業の特徴などを教えてもらい、学習意欲を高めた。約50人が先輩から高校生へ聞かれた。6年生は総合的な学習で、授業の特徴などを教えてもらい、学習意欲を高めた。

みんなで
読んで
読もう

敦賀高生に質問攻め 松原小6年、先輩、と交流



高校の授業の特徴などについて学ぶ児童
=6日、敦賀市松原小

情報受信型

連携型



敦賀地元小中生が作業

継承型

体験型



角鹿中47人 商店街で一日店長
敦賀市角鹿中は28日、校区にある神楽町1丁目商店街の店舗で「一日店長」を体験した。接客などを通じ地域への理解を深めた。

敦賀

支え合って大切



敦賀・黒河小介護事業所が授業

まんじゅう屋の天満酒方寿店では生徒4人が接客や商品の包装、店舗PRをする研修の制作などに取り組んだ。店内には次々と客が訪れ、生徒は対応に追われていた。小西晴太郎さん(13)は「想以上にお客さんが来て大変だったけど、笑顔で商品をもらってくれて接客したかいがあった」と振り返った。同店の西島由佳里さん(51)は「こういう企画は

事前段句の兼職の部に2回登場する。この企画は、敦賀市内の商店街で開かれた。市長賞には優秀な部で大沢圭子さん(金沢市)の「白壁に落書き風船たわわ」が選ばれた。舞鶴市の「一枚も捨田無き里柿たわわ」が選ばれた。

体験型

新聞から【小浜市】「地域の自然・産業を体験、発信する」

小浜・国天然記念物の無人島

蒼島 探検だ

加斗小5、6年

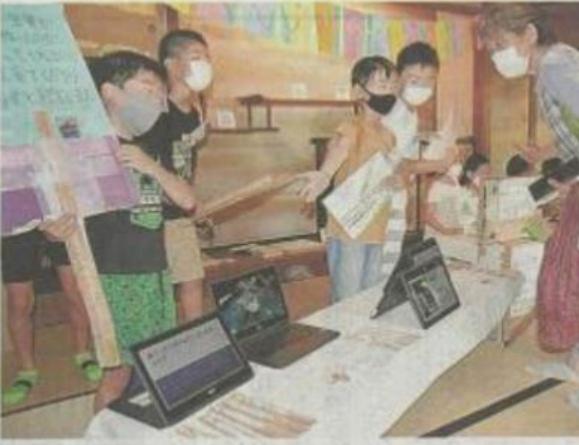
カヤツクや植物観察



継承型

体験型

自分たちでデザインした箸をアピールし販売する児童たち=12日、小浜市北塩屋のGOSHOEN



“小浜色”のお箸いかが 雲浜小児童デザイン、販売

小浜市雲浜小児童は12日、小浜をイメージし自分で色合いを考案、製作した箸を市内で販売した。小浜の魅力発信を目指す4年生の総合学習の一環で、梅田雲浜やサバ、蘇洞門など小浜の人々や、自然など六つのテーマをイメージして箸に写し取る特殊技法で、各テーマのイメージに合つ換換を箸に付けた。

体験型

小浜市内外海小の5年生が18日、海洋ごみや地元の海岸の砂、貝殻などを使ったハーバリウム作りに挑戦した。児童は瓶を海中に見立てる、自由な発想で個性あふれる作品を完成させた。

5年生では総合の時間で海洋ごみについて学習しており、夏には内外海地区的海岸清掃も行った。海洋ごみの活用策を考案する中で、児童がハーバリウム作りを提案した。

この日は市のハンドメイド教室「あとりえYukie」の下仲直美さん(63)を講師に招き、児童9人が参加した。瓶の底にまず開拓地区の海岸の砂を敷き、乾燥した海藻、青や緑色のシーグラスや貝殻などの素材

集めたごみで海中風景

浜

を、ビンセットで丁寧に配り直していく。下仲さんのアドバイスを受け、真珠に入

見立てて白いビーズを入れ



SOS型

体験型

新聞から【美浜町】「3小学校・中学校がまちづくりを提言」

たたかの10月、19年度
里のさざなぎ課題調べる
動に間に成り組み、ま
けた貴重だ。この経験の時間、町若狭
誰がおどき者か分岐す
え、美浜町がいなくなつ
て、× × ×
未来新聞の運営は、町民イン
タビューダけでなく、県内市町
時、空き家を活用して、流の企業
の人が集まるしなが、地元住
民らが参画するアマチアを考え
た。未来新聞には、赤やさんの
た」と振り返る。
重慶大さんのループでは
すね。もつた金券や袋詰め
体すれば地元がなぜ
人が移り出る」とい
新聞での報道叢書に

型信受報情報

継承型

情報受信型

A classroom setting where students are seated at their desks, each working on a laptop computer. A teacher stands near the front of the room, facing the students. The room has a chalkboard and some educational posters on the wall.

情報知り考え方育む

SOS型

連携型

新聞から【美浜町】「3小学校・中学校がまちづくりを提言」

第13回地域再生大賞	
団体・プロジェクト名	北海道・東北
北海道・東北	
北海道ブックシェアリング	室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会
はちのへ未来ネット	NEXT REVOLUTION
六日町合同会社	男鹿ナマハグロックフェスティバル実行委員会
東の食の会	湯50(ゆ ごじゅう)
なみえアートプロジェクト「なみえの記憶な	まつり」
東北・上信越	
逆川にこどもエコクラブ	ダイバースティ
前橋工科大 境洋樹研究室	舞らしの編集室
NIPPONIA SAWARA	東京スリバチ学会
神奈川大体育会サッカー部・竹山団地フ	ミライズ
EDGE	つくえラボ
東海・北陸	
善商	当目
ふるさと美浜元気プロジェクト	加牟内村虹色大工安賀会
シズオカノーボーダーズ	尾州のカレント
むすび目Co-working	むすび目Co-working
近畿	
ことどもソーシャルワークセンター	木津川アート
コリアタウン・多文化共生のまち	草やまの草むら
奈良新しい学び旅推進協議会	和歌祭保存会
中国・四国	
未来	江の川鉄道
日生町漁協によるアマモ再生プロジ	基町プロジェクト
3 in (サンイン)	徳島文学協会
天体望遠鏡博物館	今治コミュニケーション放送
こうち伴ファーム TEAMあき	子どもパートナーズ HUGっこ
九州・沖縄	



「ふるさと興味研究フォーラム」で中学生らに発言を先づける発表=19日、横浜市立生田学習センター(北区あざみ野北畠町)。



「ふるさと導演元気フィーバム」で発表した30小学校のうち、6年生

美浜元気プロジェクト 地域再生大賞ブロック賞

第15回出雲再生六歳の御涼・井藤アロック賞を受賞して、美馬町の3小学校で貢献の地蔵祭り（ふるさとと郷土資源プロジェクト）。取り組みのさきかけは2010年（平成22年）、3小学校で実現する。小学校への通達だった。（小学校がなくなった区にあるから）そこで、小学校と地域のつながりを強めたい（担当教諭）。地域に会うて、子供たちが70人に増えたときに重ねさせ半年前に準備し、まるで地域祭りのよう普段と変わった。（夏の時代から、町内を歩く）歩く街は回った。（大須賀町、御涼祭）——間に本日

古里を探究 町民一つに

3 小児童ら奮闘

「お前が何をやるんだ？」
「お前が何をやるんだ？」

第一回はお形にならなかった
第二回は、五年の海賊時代で、
第三回は、その半ばで、
した」と男は中央小の草履
賣を教諭は持つてゐる。井戸田
一郎にいたる。第一回は、
未だ行方不明のまゝ、
の紹介パンフレットを手小
学校回で制作、英語版、音
楽CDの印象なども持つて、
学校が会員で、行きもいめ

清ぶ

地域再生大賞候補50団体

各地のまちづくり活動は新型コロナウイルス禍を経て、しなやかで、たくましさを増した。福井新聞など地方新聞46紙と共同通信社が全国のまちづくりを応援する第13回地域再生大賞の第1次候補者を通過した50団体・プロジェクトは困難を克服し、未来を切り開こうと頑張続ける。担い手は若い世代や団体



福井は「ふるさと美浜元気プロジェクト」

の活性化策発信

県美浜町の全3小学校
が学習の一環として合
を調査し、課題や課題
アイデアを新聞にした
ーラムを開いたりして
民らに発信している。2018
プロジェクトがスタート



美浜町の活性化プランを「オーパー」
ムで発表する児童たち=2019年12月

新聞から【高浜町】「まちの課題を地域と共に解消に取組む」



澤美准教授(右)がアーフルミントから
精油を探る様子を観察する生徒 15
日、高浜町内浦中

10

A photograph showing three students in white lab coats and masks working together to analyze a DNA gel electrophoresis pattern. They are looking at several pieces of paper with the gel results spread out on a table.

SDGs分かったよ 高浜小で交流学習

高小SDGsは、住みやすいまちづくりや町内人口増加へ、児童が今音考査、産業や観光、仲間つくり、学習など、多くのテーマがある。交流学習は児童にSDGsへの理解をより深めてもらおうと、探究学習でSDGsを学ぶ若狭高校うとオンラインで実施した。

児童約60人は、国連のSDG s17項目と高小SDGsの8項目の関連性を考えた。児童は各SDGsアイコンについて、達成目標が類似するアイコンを選び紙で紹んでいった。

パートナーシップで目標を達成といった難しい表現が登場すると、生徒に言葉の意味を質問しながら理解を深めた。

木下大鷦君（6年）は「国連の目標と高小SDGsにはよい

産業や観光、8分野提案



新聞から【おおい町】「地域の自然にふれる、体験する」



名田庄小児童90人 南川で生き物探し

おおい

おおい町名田庄小の全校児童約90人が1日、同校近くの南川で川遊びを通じて、地元の自然を体感し

た。南川に親しむ地域学習として毎年行っている。河川敷の石を積んで高さを競う遊びや、深さ60センチほどの川に入り、生き物探しに挑戦した。「魚がいた」「水が気持ちいい」と歓声を上げ、素手でオタマシャクシをすくい上げたり、網で小魚を捕まえたりした。

森口智衣さん（6年）は「暑かったけど、友達と水遊びができる楽しかった」と笑顔で話した。

（石川悠樹）

川に入って生き物を探す
児童1日、おおい町名
田庄小の南川

9
体験型

9
継承型

新聞から【若狭町】「地域を知る・体験する、調査・発表する」

みんなで
読もう

梅干し作りって大変 若狭町三方小 シソ漬け込み体験

若狭町三方小の6年生は8日、梅干し作りに欠かせないシソの漬け込み作業を体験した。葉のもぎ取りやあく抜きに挑戦し、「福井梅」に理解を深めた。地元特産に親しみ伝承してもらおうと同校では毎年、6年生が収穫や塩漬けなどを体験している。

この日は町内の梅農家、三宅里美さん（62）が指導し、児童23人はシソの葉をもぎ取り洗つてなど梅干し作りを体験している。

若狭町三方小の6年生は8日、梅干し作りに欠かせないシソの漬け込み作業を体験した。葉のもぎ取りやあく抜きに挑戦し、「福井梅」に理解を深めた。地元特産に親しみ伝承してもらおうと同校では毎年、6年生が収穫や塩漬けなどを体験している。

体验型

1500年前の埴輪片を慎重に接合する児童
14日、若狭町歴史文化館

1500年前の埴輪片を慎重に接合する児童

14日、若狭町歴史文化館

埴輪片接合 児童が挑戦

若狭町瓜生小 5世紀後半の30点

貴重さ体感「ドキドキ

若狭町脇袋の埴袋古墳群について学習している地元瓜生小の6年生が4日、町歴史文化館で、国指定史跡の西塚古墳から出土した5世紀後半の埴輪片の接合体験に挑戦した。断面を確認しながら慎重に固定し、古墳の貴重さを感じた様子。今後も古墳について調べ、今秋までパンフレットを作製する予定だ。

（北川龍次）

脇袋には確南県大規模、全長約100mの上ノ原古墳や国指定古跡の中塚古墳など4基の古墳が密集し、脇袋古墳群といわれるそのうちの一つが古墳時代中期の築造とされる西塚古墳。周濠のある前方後円墳で

今回合したのは昨夏の発掘調査で大量に出土した

円筒埴輪のかける。住民で

つくる町歴史文化館サボ

ターの会のメンバーが洗浄

して理解を深めた。

静岡大の塙田真吾准教授

が代表を務める一般社団法人「プロフェッショナル

をすべての学校」が全国

各地の小中学校で行つて

いる授業。さまざま業種

の企業と連携しており、今

回は富士通総務本部の尾

池紀子さんが講師を務め

た。

児童は1カ月前から地球

温暖化について学習して

きた。6グループに分かれ

「冷蔵庫の中を整理する」「夏は衣類乾燥機を使わず

外で干す」などと、自分た

た。

ドライヤーの使用時間を

減らしたという児童の発表

について、尾池さんは「温

風に比べ、冷風の消費電力

は10分の1程度。うまく使

つてみて」と助言。重長柚

希さん（11）は「髪にツヤも

出ると分かった。取り組み

たい」と意気込んでいた。

（北川龍次）



身近にできる省エネ実践し発表した児童

若狭町鳥羽小

身近にできる省エネ
児童がアイデア発表

体验型

情報受信型

児童は1カ月前から地球温暖化について学習してきた。6グループに分かれ「冷蔵庫の中を整理する」「夏は衣類乾燥機を使わず外で干す」などと、自分たち。

ドライヤーの使用時間を減らしたという児童の発表について、尾池さんは「温風に比べ、冷風の消費電力は10分の1程度。うまく使つてみて」と助言。重長柚希さん（11）は「髪にツヤも出ると分かった。取り組みたい」と意気込んでいた。

（北川龍次）

新聞から【県立学校の取組～「×」で新しいものを生み出す】



難民に服支援 意義学ぶ

若狭東高 ユニクロスタッフ招き

A photograph showing several students in a classroom. One student in the foreground is facing away from the camera, while others are visible in the background. The scene suggests a group activity or a lesson taking place.

小浜市の若狭東高は、ユニークロやジーユーを運営するファーストリテイリング(本社山口県)などが実施する、難民の子どもたちに服を届けるプロジェクトに2年連続で参加する。このほど同校でユニークロのスタッフによる講義が行われ、生徒が難民やプロジェクトの意義について理解を深めた。

「届けよう、服のチカラ」と銘打ち、同社が国連難民高等弁務官事務所と連携して約10年前から取り組んでいる。小中高生の参加型プロジェクトで、昨年度は全国625校から80万着以上

を集めた。

若狭東高は、昨年度の3年生が初めて参加。本年度は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶ社会の授業の一環として、ビジネス情報科経営コースの3年生10人が取り組む。

ユニクロ敦賀店の増田直仁店長らスタッフ2人が講義した。増田店長は難民の子どもたちには少量の荷物で逃れるため、衣食住を整える支援が必要と説明。

「着なくなった服を捨てるのではなく、必要とする人に届けることで環境問題解決にもつながる」と協力を呼び掛けた。

市川幸裕さん(17)は「SDGsのために自分に何ができるか、初めて具体的に考えられた。地域にも協力の輪を広げて、たくさん集めたい」と話した。

生徒は今後、服を集める方法を考え、2学期中に実践する予定。
(田中奈々子)



お薦め本やイベント発言

体験型



情報受信型

連携型

SOS型

連携型

新聞から【県立学校の取組～縦・横の「つながり」をつくる】

体验型

連携型



新聞から【県立学校の取組～教科学習の授業を変える～】



体验型

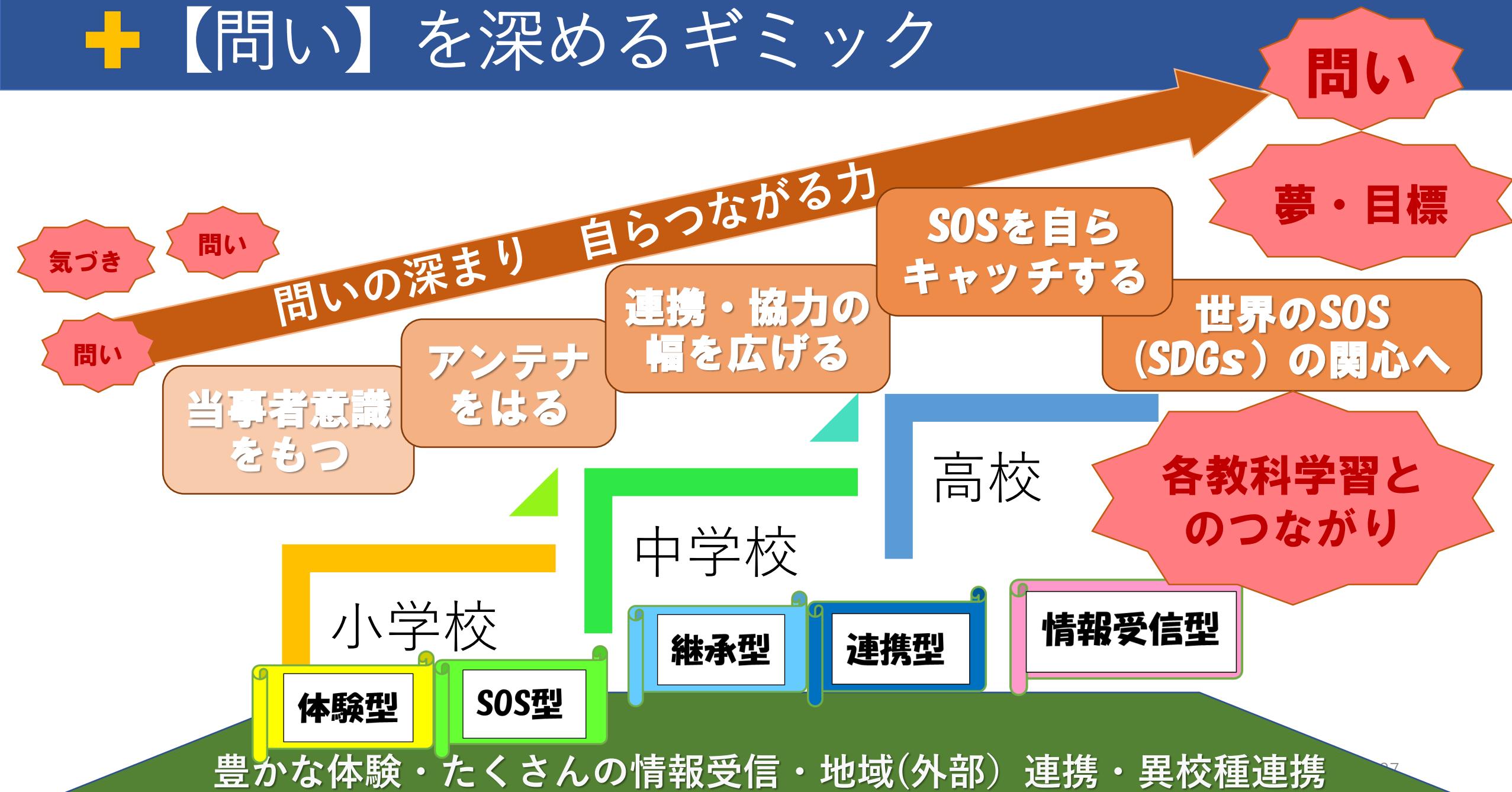


たといふ。
動車に載せるなど条件を
変えて実験する生徒たち
一若狭高



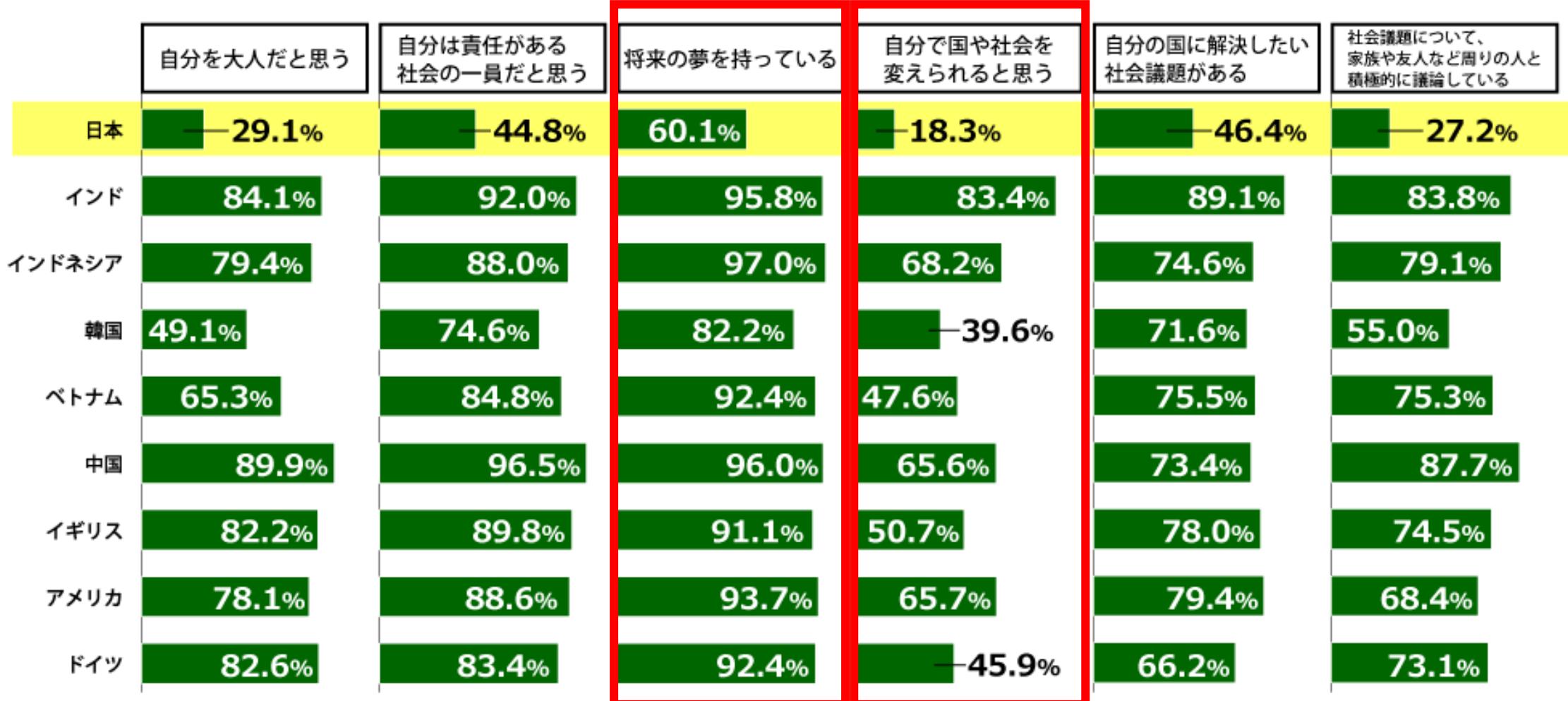
情報受信型

+ 【問い合わせ】を深めるギミック



日本財団「18歳意識調査」第20回 「国や社会に対する意識」（9カ国調査）2019

Q. あなた自身について、お答えください。(各設問「はい」回答者割合)



引用：日本財団「18歳意識調査」第20回 「国や社会に対する意識」（9カ国調査）2019

R3年度→4年度 全国学力・学習状況調査 質問紙「18歳調査」に関する項目抽出データ

R3年度小学校

R4年度小学校

将来の夢・目標を持っている

地域・社会をよくするために
どうすべきか考える

地域の行事に参加している

総合的な学習で課題を立て
情報収集・整理し発表した

人の役に立つ人間になりたい

友達と協力することは楽しい



■ 全国 ■ 県 ■ 嶺南平均

R3年度→4年度 全国学力・学習状況調査 質問紙「18歳調査」に関する項目抽出データ

R3年度中学校

R4年度中学校

将来の夢・目標を持っている

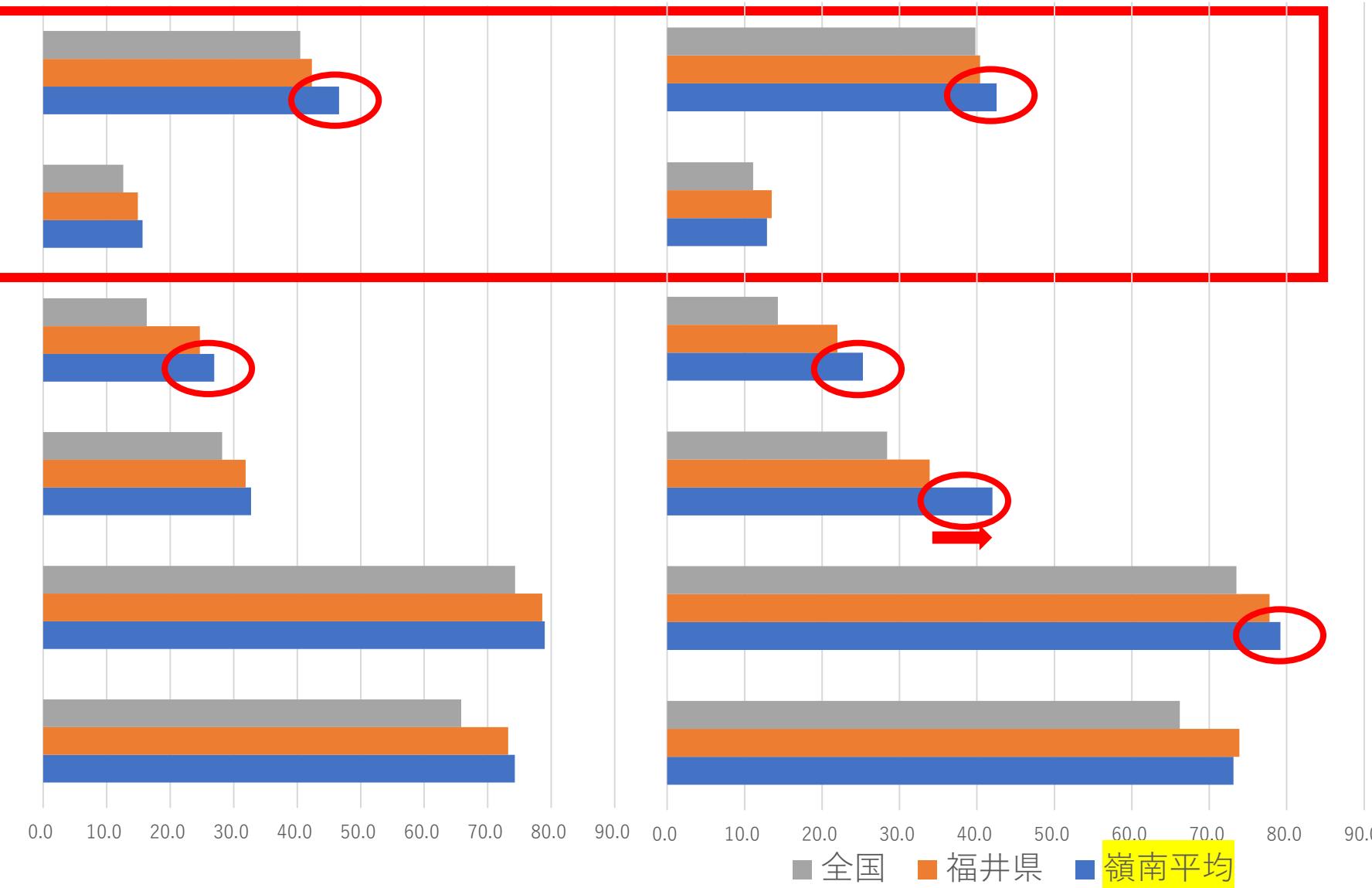
地域・社会をよくするために
どうすべきか考える

地域の行事に参加している

総合的な学習で課題を立て
情報収集・整理し発表した

人の役に立つ人間になりたい

友達と協力することは楽しい



R4 「知るvol. 2」 事務所実行委員会のギミック

「学び・交流推進」チームmission

- ◇資質・能力の見取り・評価を「学ぶ」場をつくる
- ◇学校間で資質・能力について共に考える場をつくる

【講師を招聘した「学び」の場づくり】R-cafeの開催

【小・中・高・大のつながりづくり】交流の場づくり

【嶺南教育実践フォーラムとの連携】共有の場づくり



7/13 参加者20名(当講師研修講座 参加者対象)

一般財団法人こたえのない学校

代表理事 藤原 さと 氏

【おもな感想】

- ・身近なことを題材にし、自分たちが考えたことや行ったことに対する有用感を感じられるものにすることができると、次の意欲につながるような気がする。
- ・設定した課題に対して生徒の熱量がずっと継続するためには、どのような工夫をすると良いかということを学びたい。
- ・テーマが具体的になるほど、児童生徒の活動も多方面になり教師の把握が難しくなることも、確かにその通りだと思う。
- ・課題の設定、ゴールの設定が難しいと思った。課題設定は、必ずしも「問い合わせ」から入らなくてもよいということが目から鱗だった。
- ・探究の段階は、小中高と順を追って進んでいくイメージなのかなと感じた。
- ・自分たち教員が楽しんで取り組めることが本当に大切だと感じた。



嶺南ふるさと学習推進プロジェクト
先生たちの「学び・交流」オンライン座談会



R-cafe

嶺南だからこそできる?「ふるさと学習」
~自ら「問い合わせ」をつくる力~



令和4年

11/29(火)

14:30~16:00

慶應義塾大学特任准教授・プロデューサー

わかしん ゆうじゅん

若新 雄純 氏

《プロフィール》

若狭町出身。慶應義塾大学大学院修了。「鯖江市役所 JK 課」など社会実験的な事業や研究プロジェクトを多数企画。現在、福井県教育庁・高校教育課と県内高校の校則を見直す「ルールメイキング」事業もプロデュース中。「ワイド!スクランブル」や「Nスタ」など多数のテレビ・ラジオ番組でコメンテーターとして出演。

参加者
募集

【ポイント】

- すぐに答えの出るものではなく、正解よりも疑問を大切に。○より!?
- 探究していい問い合わせをつくるのではなく、子どもたちの気になって仕方ないから問い合わせが生まれる。

【おもな感想】

- 問い合わせのために探究しているのではなく、感情が大事。
- 何を一番大切にしたらよいかが自分の中ではっきりしました。何を正解とするかは探究者に委ねられていること。違うのでは!?を言葉にすること。

【C1・C2 のセッションについて】

		ふるさと教育(研究推進校実践発表) 「自ら『問い』をつくる力」の育成と見取り・評価について
C-1		<当日発表> 美浜町立美浜東小学校 校長 小島 義和
C-2	2月10日(金) 14:00~14:50	若狭町立瓜生小学校 校長 津田 雅幸
共通		<事前視聴> 高浜町立高浜小学校 校長 朽木 史昌 おおい町立本郷小学校 校長 早川 勇治 若狭町立熊川小学校 校長 加藤 勝代
C-1	2月10日(金) 14:50~16:30	第2回「嶺南ふるさと学習」推進プロジェクト会議
C-2	2月10日(金) 14:50~15:30	R-cafe 先生たちの「学び・交流」オンライン座談会

R3年度実施



生まれた「つながり」

岡山大学 準教授
中山 芳一 先生

非認知能力としての
「主体性」を育て、見とる



- 小浜市立西津小学校
- 若狭町立瓜生小学校
- ・講師として招聘
- ・岡山県 勝間田小学校との
交流(非認知能力育成)

R4 「知るvol. 2」 事務所実行委員会のギミック

「連携サポート・広報」チームmission

◇ 実践をサポート

【参観・助言】 自ら「問い合わせ」をつくる 学習場面を参観・助言

◇ 実践をつなぐ

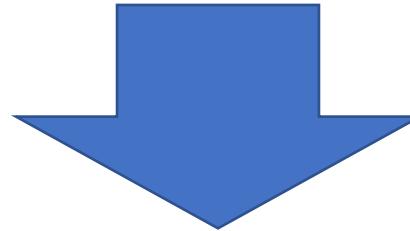
【実践校の情報提供】 見取り・評価の 實践情報を提供

【同校種連携モデル】 大学講師等との 連携を提案

【異校種連携モデル】 小・中・高校間の 連携を提案

今年度の重点

- ① 「自ら『問い合わせ』をつくる力」の育成
- ② 「自ら『問い合わせ』をつくる力」
の見取り・評価



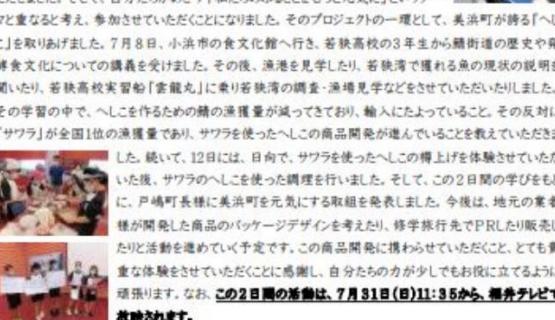
研究推進校 5校

【美浜町研究推進校】 美浜東小学校の取組



私たちのふるさとを、海を、もっと…

本校の高学年は、総合的な学習の時間に「ふるさと美浜元気プロジェクト」として、5年生で美浜町の良さを再発見して発信したり、6年生では課題を見つけてその解決をめざした取組を提案したりという活動を行ってきました。今年度6年生は、福井テレビ様による日本財團の「海と日本PROJECT」に参加しないかという提案をいたしました。そして、自分たちがめざす私たちの今こうをまとめていけるテーマ



○ふるさと新特産物「鰆のへしこ」作り・販売（6年生）

Ⅰ 修学旅行での販売活動(10月に向けて)

- ・校長が児童に「MISSION」→児童の「問い合わせ」へ
【MISSION 1】サワラのへしこを販売しよう!
【MISSION 2】修学旅行の行先を決めよう!
【MISSION 3】販売にあたって何が必要か?

2 日本財団～海と日本～プロジェクトのプログラムに参加(7月)

- ・多数のプログラムに参加、
 - ・日向の生産者グループと、サワラのへしこを使った調理実習
 - ・美浜町長にプレゼン実施

【課題】サワラは福井県で一番漁獲量が多い南方型の魚。県需要少ない。

3 見取り・評価

・ポートフォリオ的に記録

から」と、若狭の豊か
さアラスチック（みて）
魚が減少してい
細にも言及。「ボイ」
せずに、きれいな海
を守りたい」と、

【若狭町研究推進校】瓜生小学校の取組



○地域の歴史探究(6年生)

- ・以前から取り組んできた古墳群について探究を進めていく。
- ・瓜生にある古墳群を「有名に」「知ってもらいたい」という目標・夢。
- ・様々な活動を考える中に、障害(壁)が出てくる。
- ・それを課題として、児童がアイデアを出し、課題を解決していく学習へ。

○活動

1学期「古墳群について知る」

- ・古墳群について語り、発信できる発信力の育成を目指す。
- ・修学旅行や熊川小との交流会での発表を想定。
- ・若狭町学芸員、語り部の協力(地域の人材の活用)。

2学期「自分たちの調査・発信活動」

- ・古墳群を有名にするために、パンフレットづくり、SNS発信などの意見からグループに分かれ活動。

○見取り・評価

- ・感想、活動の記録、自由な記録をポートフォリオ的に残す。
- ・教員評価、自己評価を取り入れ、自分の活動を振り返る活動を行う。

【若狭町研究推進校】熊川小学校の取組



○地域の宝についての調査・発信(4~6年生)

○「問い合わせ」へのアプローチ

- ・社会福祉協議会との連携によるしきけづくり。
- ・地域自宅蔵から、江戸・大正明治時代「引き札（広告・チラシ）」発見
- ・社会福祉協議会の方から、調査の続きを熊川小4~6年生に依頼。
- ・例年熊川小学校で作っているパンフレットにも掲載を依頼。

○活動

- ・実物を鑑賞 → 興味、気づき、疑問、調査したい引き札の選択
- ・縦割りグループ活動（地域調査、インタビュー等）

○見取り・評価

- ・個人面談（児童の気づき・活動計画作成について評価予定）

【おおい町研究推進校】本郷小学校の取組



○おおい町の良さを発見し、発信する(全学年)

- ・地域密着型のふるさと学習に取り組み、地域の資源・人材を活用
- ・近畿大学との連携(町事業)→報告、助言
- ・ループリックによる見取り、評価の研究

<1～2年生> 身近な場所での「気づき」「体験」を積み重ねる

<3,4年生> 「経験」「知識」を積む

○4年生「梅」…子どもの考えを大切にする

・梅の収穫から、梅シロップや梅干しをつくる、三方梅との「違い」を体験

・栄養教諭、梅園、生産組合、企業「うめっぽ」と連携

・国語「お礼状」等の教科横断

<5,6年生>「おおい町の強みを考える」

・古民家の調査、活用方法

・自分たちができること

「きのこの森」、本郷小児童制作キャラクター「ウメリちゃん」を生かす

・近畿大学生(外からの視点)と自分たちの視点の「違い」から「問い合わせ」へ

【高浜町研究推進校】高浜小学校の取組



○高浜小SDG'sを活用した課題発見、調査・発信活動(全学年)

・地域密着型ふるさと学習。地域の生の声を実際に聞き、課題の設定や問い合わせを生み出す活動。児童・外部機関・人が積極的に学校に行き来。

<1～3年生共通：身近な場所での気づきを生む>

- ・1年生「通学路探検」「町探検や地域の方との交流」
- ・2年生「地域の食材」「観光スポット・神社等」体験→パンフレットづくり→校内発表
- ・3年生「地域の食材」「町内探検」→校内発表

※2、3年生：食材の収穫、地域との交流

<4年生「高浜小SDGsをもとに、何ができるだろう？>

高浜町社会福祉協議会と連携、高齢者施設での交流体験

<5、6年生共通「コドモノ明日研究所入所」>

- ・新高浜小SDGs制作・発表
- ・若狭高校文理探究科生徒との合同学習会(9月)
「新・高小SDGsを通して、ふるさと若狭について考える」
- ・若狭高校文理探究科生徒へのプレゼンテーション

<見取り・評価について>

- ・学びの履歴を残す…タブレットの活用
- ・自己、相互(グループ)評価、異学年評価(発表)
- ・外部評価…毎週月曜日、コドモノ明日研究所から来校

- R5 「知るvol.3」 → 「つなぐ・広げるvol.1」

- 学校間の教員、児童・生徒をつなぐ
- 探究的な学びをつなぐ
「ふるさと学習↔教科」



<2>グループセッション(40分)

【セッション1】

- ・実践発表校への質疑応答・感想の共有

【セッション2】

- ・5校の実践+自校の実践から見えた
「自ら『問い合わせ』をつくる力」の育成のための
環境づくり、つながりづくりについて

【セッション3】

- ・「自ら『問い合わせ』をつくる力」の見取り・評価について



<3>セッションの共有(10分)

各グループからの報告

(各2分間)



<4>次のステージへ

「嶺南ふるさと学習」プロジェクト

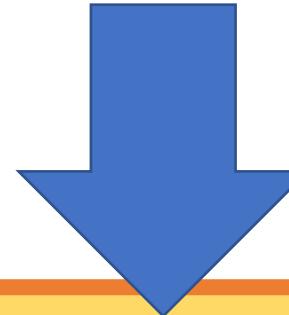


ステージ1「知るvol.3」、そして、

ステージ2「つなぐ・広げるvol.1」へ

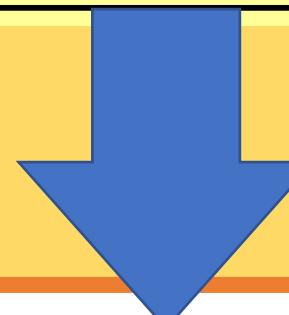
ステージ1 「知る」年度別計画

R3 「知るvol.1」 → 相互の実践を「知る」



課題→・資質・能力の見取り、評価
・学校間の「つながり方」

R4 「知るvol.2」 → ①資質・能力の見取り・評価
②異校種間のつながり方

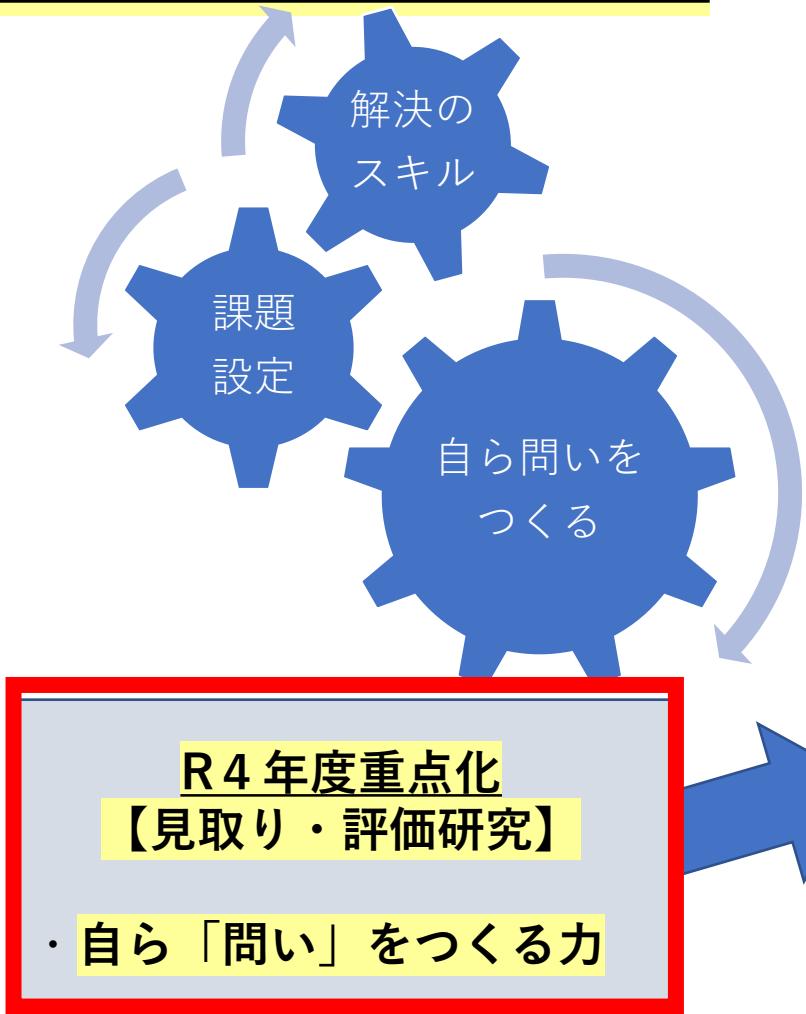


R5 「知るvol.3」「つなぐ・広げるvol.1」

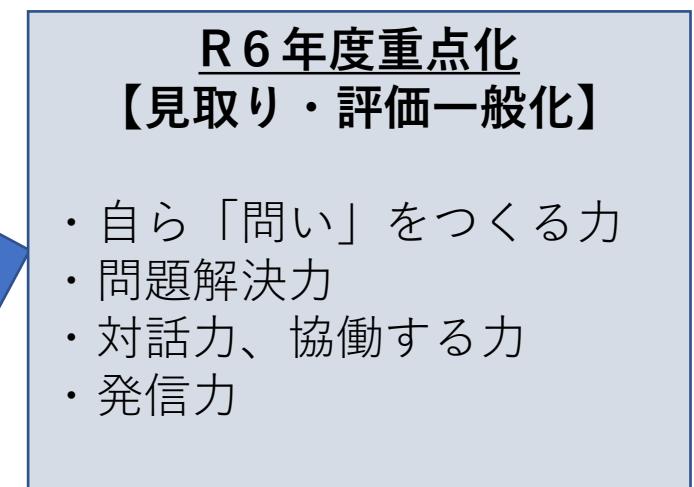
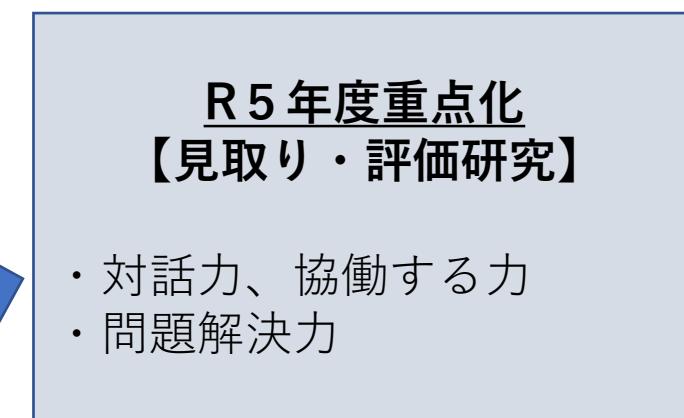
学校間の教員、児童・生徒をつなぐ
探究的な学びをつなぐ「ふるさと学習↔教科」⁴⁷

重点化した「知る」の「見取り・評価」研究

R4 「知るvol.2」



- ①資質・能力の**見取り・評価**を「知る」
- ②異校種間の**つながり方**を「知る」



「嶺南ふるさと学習」に「教科学習」を する

「嶺南
ふるさと学習」

探究的なふるさと学習

各教科で
身につけた
「見方・考え方」

見方・考え方を働かせた教科学習

教科の「見方・考え方」を働かせる

<5>アドバイザー高評

